

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0790400766 | | |
| 法人名 | 株式会社WILL GOLD | | |
| 事業所名 | グループホームあしび 1丁目 | | |
| 所在地 | 〒973-8404 福島県いわき市内郷内町金坂21番地の2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年3月23日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年6月9日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人福島県シルバーサービス振興会 | | |
| 所在地 | 〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年5月12日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して一年未満のグループホームですが、「ご入居者が穏やかに生活していくためのお手伝い」を合言葉にケアを提供しています。木造平屋建てのホームは、木のぬくもりを至るところに感じることができあたたかい雰囲気の中での生活を送りやすくなっています。一丁目のフロアは東側の為午前中は日当たりが良いですが、午後からは若干日当たりが悪くなります。平屋建てのため、これまで入居者が生活をおくってきた自宅などと同じ目線・環境で生活することができるため安心して生活していただくことができます。ケアを提供するスタッフの平均年齢も若く、明るいスタッフが多いため事業所全体の雰囲気が明るいのが自慢です。まだまだこれからのグループホームですが、入居者に楽しく、穏やかに生活していただくためさまざまな工夫をしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 開設1年目の事業所ながら、明るい雰囲気の中で穏やかな生活が送れるよう、日頃の生活の会話の中から利用者の意向や希望の把握に努め、一人ひとりの持っている力を発揮して頂きながら利用者本位の支援に取り組んでいる。
2. 職場内研修や外部研修、伝達研修を通し職員の資質の向上を図りながら、各ユニットが理念に則した目標を設け質の高いサービスの提供を目指し取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 入職時に全スタッフに法人理念及び事業所理念を解説している。 | 職員採用時やミーティング、会議、管理者と職員の個別面談時などに理念を説明し確認している。本年度より各ユニット毎に事業所理念を実践するため単年度目標を設け、共有しながらサービスにつなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 食材買い物の際に、近所のスーパーへ出向き買い物客と会話が発生したりしている。夏には近くの神社の祭りにスタッフと入居者が参加させていただいた。近くの小学校の学習発表会予行練習を見学させていただくこともあった。 | 開設に向けた内覧会で地域との交流を持ち、近隣神社の祭事に利用者と職員が参加し、小学校の学習発表会予行演習の見学や子どもフラガール等を受け入れ交流を深めている。また、散歩や食材の買い出しの際に地域の方と挨拶を交わすなど日常的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | そこまでの地域貢献はまだない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている | 開設からの入居者数推移や取り組み、事故報告などを実施することで、出席者からさまざまな意見がでる。取り入れられるのものは取り入れることでサービスの向上に活かしている。 | 運営推進会議では、地区自治会長を始め、地域の方々や利用者、家族代表が委員となり、事業所の取り組みや利用者状況、事故報告等について質疑が行われ、頂いた意見をサービスに反映するよう努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 毎月空床情報を提出している。また、重大事故発生時などには迅速な報告を心がけている。また、人員体制などで不明な点があれば市の担当者に相談をしている。 | 市担当者とは、事業所の開設に伴う相談や利用者状況、他市町村からの利用申し込みの対応等について相談や報告を行い、協力関係を築くよう努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日常的なケアの中で身体拘束を考えなくてはならないような入居者のBPSDは発生していない。開設前の事前研修で身体拘束には少し触れたが、再度内部研修会開催し、身体拘束についての理解を深める予定である。 | 身体拘束に関する研修を行い内容の理解を図りながら、拘束をしないケアに全職員で取り組んでいる。日中時間帯は施錠せず、見守り対応している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 日常的なケアの中で虐待につながるような入居者のBPSDは発生していない。開設前の事前研修で高齢者虐待には少し触れたが、再度内部研修会開催し、高齢者虐待についての理解を深める予定である。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 名前程度は知っているかもしれないが、詳しい内容についての理解は乏しい。また、その理解のための内部研修会の開催もしていないため今後開催し理解を深められる機会を提供していきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際には、出来る限り時間をかけ説明している。特に退居及び契約解除の要件については念入りに説明をうい、理解していただけるように努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | そのような機会を設けたことはない。日常的に入居者や家族からの要望を受け入れる雰囲気がつくれるよう努めており、率直な意見を頂戴している。 | 利用者・家族代表が運営推進会議に参加し意見や要望を表せる機会を設けている。日常生活の中で利用者の意見や希望を把握するよう努め、家族からは面会時や通院付き添い時に意見や要望を聞き、それを運営に反映するよう努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 各フロアでの全体会議にてケアスタッフからも率直な意見を頂戴している。また、日常的にも気づいた点があれば提案していただいている。 | 代表者、管理者は日常的に職員の意見や提案を聞くように努め、ミーティングや会議、年2回の管理者と職員との個別面談を通して意見や要望、提案を聞く機会を設け、運営に反映するよう努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | まだ不十分な点は多いが、ケアスタッフがやりがいをもち業務にあたるよう職場環境を整備しているつもりである。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修や内部研修の開催はスタッフ掲示板に掲示し知れせ、自発的に参加していただく場合や指名にて参加していただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 福島県グループホーム協議会いわき支部の交流会などに参加している。 | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ケアチームは本人が安心できるような声掛けをするように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 管理者・計画作成担当者が話す機会が多いが、ケアチームでも関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 安易な入居相談には応じないようにしている。本人・家族の希望があきらかに異なる場合には他サービスの利用をすすめたりしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ケアチームはそのように考えケアを提供していると考えている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 安易に訪問診療や往診を利用するのではなく、家族の力もお借りして可能な限り通院を続けるなどしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人が希望すれば主治医は在宅の時と同じ医師でお願いしている。代理人の許可があれば親類・知人などの面会も自由に実施していただいている。ホームスタッフと一緒に馴染みの場所まで出向くことはまだない。 | 友人、知人の訪問や馴染みの美容室、行きつけのマッサージ店など、馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。また、家族やお孫さんの訪問、外泊を通して関係性が途切れないよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 認知症の症状から、他者とのかかわりが困難な入居者も存在するが、ケアスタッフが中心となり大きなトラブルとならないよう配慮している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約解除し自宅へ戻った入居者がいたが、契約解除後も書類物の郵送など必要な部分はしっかりと実施した。 | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 集団生活を前面に出すことなく、可能な限り個人の考えや思いを尊重してケアを提供している。 | 日頃の関わりの中で、利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努め、それを職員間で情報を共有している。また、家族からの聞き取りや、普段の表情、行動、動作等を参考にしながら本人本位に検討しサービスに活かせるよう努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 可能な限り入居前の生活を把握するようになっている。ただし簡単ではなく、入居後も継続して把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ケアチームからの情報提供やケア記録などにより状況把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 出来る限り現状に即したケアプラン作成が可能なよう、努力している。 | 利用開始時、利用者の課題や意向を家族、関係者で話し合い、3ヶ月間の介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、利用者の状態変化や意向に応じた介護計画の見直しを行っている。大きな変化が見られないときは6ヶ月毎の見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケア記録に各入居者の記録を細かく入力するように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | さまざまなニーズに柔軟に対応できるよう工夫している。外部の専門家へ相談するなど自事業所での解決にこだわらないようにしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 社会資源の把握まではたどり着いていないのが現状である。入居者の生活環境整備のためにも社会資源の把握に力をいれていきたい。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者及び家族の希望を第一にしている。可能な限り適切な医療を提供しようと努力している。 | 本人やご家族が希望するかかりつけ医に家族の協力を得て受診している。普段の様子や変化を家族へお伝えし、受診結果も報告いただき、職員間で情報共有している。また、利用者の状態変化が著しい場合は、職員も同行する等、適切な医療を受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週一回の医療連携時に看護師に確認したい事項の確認を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には迅速に情報提供を文書で行うよう心がけている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居前の見学時や入居契約時に今のホームの体制で可能なこと・不可能な事を説明しているが、その後終末期の話をする機会の設定などの取り組みは実施していない。今後取り組んでいきたいと考えている。 | サービス利用契約時に本人・家族に対し「重度化した場合における対応に係る指針」の説明を行い同意を得ている。また、本人や家族の意向を踏まえ、協力医療機関と連携を図り、安心して終末期を迎えられるよう、事業所が対応しうる支援が提供できるよう検討している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時対応方法は、実践形式での内部研修会にて学ぶ機会を設けた。今後も定期的を実施していきたいと考えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練をととして日中の火避難訓練は実践練習を行った。今後夜間を想定した避難訓練、地震時の対応方法など周知・訓練していきたい。 | 昨年10月に、消防署立合いによる日中の火災を想定した総合防災訓練を実施している。また、6月に第2回目の総合防災訓練を予定している。災害時に備え、食料や飲料水を備蓄している。 | 火災、風水害、地震等の様々な災害を想定した防災訓練に関する年間計画を立案し、地域住民の協力を得ながら訓練の実施に努めて欲しい。 |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 基本的に敬語での対応が出来てはいる。 | 全職員が利用者の尊厳を第一に考え、利用者本位のケアに取り組んでいる。特に利用者とのコミュニケーションでは、敬語での会話を徹底し利用者の人格を尊重した対応がなされている。また、個人情報の保管については、鍵付ロッカーで管理している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 簡単な選択をする機会を提供したりすることに努めている(例:飲み物の種類など) | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 事業所側の都合は前面にせず、あくまで入居者の希望や意向に沿ったケアを提供するように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入居者の好みもあり、比較のお気に入りの洋服になりがちであるが、それも入居者の好みの為大切にしてケアを提供している。ケアしやすいという理由で衣類を選択することはしていない。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている | 昼食は献立から買い物、調理、片付けを入居者とともに実施している。 | 昼食のメニューは、利用者と相談しながら決めるようにしている。また、調理、盛付け、後片付け等も利用者と共に、職員と利用者がテーブルを囲み楽しく食事できる雰囲気づくりも大切にしている。敷地内に菜園を作り旬の新鮮な食材を取り入れる予定である。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分量は比較的多めに飲用をしていただいている。食べる量に関しては、「全量食べたから良い」という考え方はせず、ひとりひとりの意向に合わせた提供をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 可能な限り自力で実施していただいている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 安易にオムツを使用しないようケアをしているが、衣類の汚染が増えた場合はやむを得ずオムツの使用をしている。それでもトイレの声掛けを実施したりと工夫してケアを提供している。 | 排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見計らって利用者を誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。また、排泄に失敗した時は極力本人が傷つかないように、周囲に気付かれないようさりげなく対応している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便コントロール不良にて、ほぼすべての入居者が下剤内服中である。個々に応じた取り組みを検討していきたいと考えている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 個々の希望を取り入れている。入浴を好まない方でも週2回は入浴をさせていただけるよう工夫している(例: 他入居者やスタッフと一緒に入浴していただく等) | 利用者の気分や体調に合わせて、週2回以上入浴が出来るよう支援している。利用者好みの湯温に合わせ、ハーブ湯やユズ湯等で香りを楽しむとともに、利用者と一緒に会話をするなど、入浴が楽しめるよう努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一律に午睡の時間などは設けていない。夜間の睡眠に影響がない程度に自由に休んでいただいている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の目的は概ね理解できていると感じるが、副作用までと言われると疑問が残る、薬手帳の写しをケアスタッフが閲覧可能な場所へ保管しておくなど環境の工夫をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 掃除、洗濯もの干し・たたみなど馴染みやすい動作を実施していただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 屋外に毎日散歩する入居者もいる。希望の人には可能な限りスタッフが付き添って屋外へでている。希望の場所までは行けていない。今後検討していきたい。 | 歩行困難な利用者も車いすを利用し、利用者全員が日常的に事業所周辺を散歩できるよう支援し、事業所の車を利用し、買い物や外食、季節や地域のイベントに出かけ、利用者が外出を楽しめるよう取り組んでいる。また、家族の協力を得て外出支援も進めている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 少額であり、紛失の危険性を代理人や身元引受人に理解していただけた場合は本人に管理していただく。多くは事業所で管理している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | すべての入居者に電話を貸すことはできないが、親類や友人から事業所の代表電話に電話があった場合は、話をさせていただいている。また、郵便物は本人に渡している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 落ち着いた雰囲気をだせるよう配慮している。入居者同士でテレビの音量などで意見が食い違うことも多いがスタッフ介入して対応している。 | 共有スペースは、利用者が落ち着いて生活できるよう、間取りの設計だけでなく、配置する家具や照明、カーテンに至るまで配慮しており、温度や湿度も適切に管理され、快適な生活環境となっている。また、季節に応じた飾り付けを行い、居心地良く生活できるよう支援をしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居室やホールの和室部分で少人数の関係性が保たれている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている | 持参物に火器類以外の制限は設けていない。ベッド使用を強制することもしていないため敷布団で生活している方も多くいらっしゃる。 | 利用者が従来使用していた馴染みの家具やタンス、写真や思い出の品々が持ち込まれたり、本人の希望により床に畳を敷いて和室を演出する等、利用者一人ひとりが居心地よく安心して過ごせるよう配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 過剰ケアにならぬよう配慮しながらケアを提供するよう心がけている。 | | |